



こんな食べ方をしているとムシ歯になりやすい！ * ☺ *

唾液により口の中が中和されるのは食事を終えてからおおよそ1時間。(歯みがきすればより早く中和されます。)しかし、食べたり飲んだりの回数が多いと唾液が活躍しきれずにお口の中は酸性に傾いてしまいます。ムシ歯にならないために、だから食いをしないように気をつけましょう。

***** 乳歯がムシ歯になるまで *****

子どものお口にムシ歯菌が感染 → ミュータンス菌は砂糖を栄養にして歯の表面にねばねばした物質を作ります → ミュータンス菌や他の細菌の巣となるプラークを形成



食べ物の糖分を餌にして酸を作り始める → そのまま放っておくと... 酸が歯の表面の固いエナメル質を溶かし始める → 歯のリンやカルシウムが溶け出してムシ歯になる



商品のご紹介 歯が生え始めた乳歯の時からしっかり磨いてあげましょう！

歯みがき習慣 トレーニングジェル

“楽しみながら・処方”にこだわりました。

ほんのり甘みのあるジェルで楽しみながら歯みがきトレーニング。仕上げみがきも嫌がらなくなります。

仕上げみがき用ハブラシ

歯が生え始めたら、乳歯をしっかり守る為に仕上げみがきを。

「乳歯は生えかわるから、ムシ歯になっても大丈夫」は間違いです！お子さまのムシ歯予防には、パパやママによる“仕上げみがき”が必要です。

育児期 Child Care

離乳食の時期

赤ちゃんの歯が生え始めてからの
お口のケア 1



未来の赤ちゃんのために

サンスターと
はじめる
赤ちゃんからの
正しい歯ケア



—0才からのオーラルケア

育児期 Child Care — 離乳食の時期 — 歯や歯並びは赤ちゃんのすべての発育に影響を与えます！

乳歯のムシ歯



乳歯のムシ歯予防は、家族のムシ歯予防から



乳歯のムシ歯予防は、まずママや家族のムシ歯予防から始まります。子どものお口の中はとってもキレイ。もともとムシ歯菌(ミュータンス菌)はいません。



ムシ歯菌は唾液を介して子どもの口に感染します。ママや家族のお口の中にムシ歯菌がたくさんいると大人がなめた同じスプーンで食べさせるなどした時に子どもの口の中に侵入してしまいます。まずママをはじめ家族のお口からムシ歯菌を減らすこと！そうすれば子どものムシ歯を防ぐことが可能になります。

★ 乳歯のムシ歯が進行すると

乳歯のムシ歯が進行するとしっかり噛むことができず、あごの発育や発音、永久歯の歯列形成などにも影響がでてきます。子どものお口にムシ歯菌を感染させないためには、まずママをはじめ家族のお口からムシ歯菌を減らすこと！そうすれば子どものムシ歯を防ぐことが可能になります。



★ ムシ歯菌に感染したらすぐにムシ歯になっちゃうの！？

もし我が子がムシ歯菌に感染していたら…と考えると食事のたびに心配になってしまいますよね？でも大丈夫、歯みがきと唾液が子どもの歯をムシ歯から守ってくれます。食後はムシ歯菌が活動しやすい状態になりますが、歯みがきでお口の中をきれいにすることで唾液が作用し、ムシ歯になるのを防いでくれます。



歯みがき

ムシ歯の原因となる
歯垢を落として
お口の中をきれいに！



唾液

食べもののカスを洗い
流してお口の中の酸を
中和して正常な状態に

ムシ歯にさせないために



寝る前のしっかり歯みがきこそ重要



寝ている間は唾液の分泌量が減少するためお口の中の細菌が繁殖しやすくなります。就寝前の歯みがきを習慣づけましょう。歯みがきの回数にこだわるよりも、まずは毎日1回、できれば就寝前にしっかり歯垢を取り除くという習慣を。その方がムシ歯の予防には効果的です。もちろん就寝前の歯みがき後の飲食は禁物、水分補給はお水かお茶にしましょう。



★ 1~2歳になったら自分で歯みがき&仕上げみがき

トレーニングハブラシで慣らした後ははいよいよハブラシの登場です。ママも子どもと一緒に歯みがきをしてみましょう。自分でみがいた後はかならず仕上げみがきをしてあげます。仕上げみがきは歯を守るために必要なこと。最初は大変かもしれませんが、正しいお口のケアを親が習慣づけてあげることで子どもは自分で歯を守る大切さを学んでいきます。



乳歯をムシ歯にしないために気をつけること！



ムシ歯菌は感染時期がはやければはいいほど赤ちゃんのお口に菌が定着しやすくなります。生えだての乳歯はエナメル質の厚さも永久歯の1/2と薄くてもろい状態。ムシ歯になりやすいうえに、1本ムシ歯になると何本もムシ歯になる可能性があります。



乳歯は、唾液からカルシウムやリンなどのミネラルを補充しながら徐々に強くなっていきます。乳歯が成熟すれば、ムシ歯になるリスクはぐんと減りその後のケアも楽になります。